

高木友之助先生を偲ぶ会



2001 4.28
東京・銀座アスターお茶の水賓館

向小友之助先生略歴

大正12年4月29日 東京・両国に生れる
昭和24年9月 東京大学文学部支那哲学科卒業
昭和26年9月 東京大学大学院（旧制）文学研究科中国哲学専攻修了
昭和29年4月 中央大学文学部専任講師
昭和33年5月 中央大学文学部助教授
昭和39年4月 中央大学文学部教授
昭和48年11月 中央大学文学部長
平成2年11月 中央大学学長
平成2年11月 学校法人中央大学総長
平成6年3月 中央大学文学部教授を定年退職
平成6年4月 中央大学名誉教授
平成12年2月10日 逝去

日本中国学会会員・東京大学中国学会会員・大学漢文研究会会員・財団法人東方学会会員
日本道教学会会員・東洋陶磁学会会員・茶の湯文化学会会員

著書

『中国の思想家 上』 宇野哲人博士米寿記念 共著 「揚雄」 頤草書房
『中国の哲学』 共著 明德出版社
『説苑』 中国古典新書 明德出版社
『漢書列伝』 中国古典新書続編15 共著 明德出版社

学術論文

「論語小考」(中央大学新制学部記念論集)
「老荘思想と社会的背景」(中央評論29号)
「中国社会に於ける商業の成立」(経商論纂54号)
「相撲原義私考」(中央大学文学部紀要4号)
「左伝にあらわれたる鄭国の一性格について」(中央大学文学部紀要12号)
「『鹽鐵論』にあらわれた桑弘羊の経済思想について」(中央大学文学部紀要22号)
「法言の研究 その著作の動機について」(中央大学文学部紀要35号)
「揚子法言五臣注引書攷」(中央大学文学部紀要65号)

その他

「『右相吉備公館址作』について」(同時代21号)
「大簡詩草」(阿藤伯海漢詩集刊行会)
「阿藤伯海先生の右相吉備公館址碑について」(向陵15巻2号)
「石井雙石翁 その人と作品」(銀花7号)
「不二山房印蛻」(鴻南草堂)
「茶の湯と中国文学(1-13)(茶の湯168-187号)」

高木先生の最終講義が、平成6年1月に中央大学文学部で行われました。



溪回松石長蒼鼠窟古瓦
 不知何王殿遺構絕壁下
 陰房鬼火青壞道哀湍瀉
 萬籟真笙竽秋色正清灑
 美人省黃土況乃粉黛倣
 當時侍金輿故物獨石馬
 憂來藉艸坐浩歌淚盈把
 冉冉征途間誰是長年者

不愠



玉華宮

杜甫

溪廻りて松風長し
 蒼鼠 古瓦に窟る
 知らず何王の殿ぞ
 遺構 絶壁の下
 陰房 鬼火青く
 壞道 哀湍瀉ぐ
 萬籟 眞の笙竽
 秋色 正に瀟灑たり
 美人も黄土と爲る
 況や乃ち粉黛の假なるをや
 當時 金輿に侍せしもの
 故物 獨り石馬のみ
 憂へ來つて草を藉いて坐し
 浩歌して淚把に盈つ
 冉冉たる征途の間
 誰か是れ長年の者ぞ

(漢詩大系所収)

山崎徹氏藏